

町長 関係機関と協議をしたい。

質問 幌延町の避難所の設置状況と利用者数は。

町長 幌延町保健センターと問寒別生涯学習センターの2カ所に避難所を開設した。利用者は、幌延では6日時点で6名。7日は1名。問寒別での利用者はいない。

質問 IP電話を利用し、情報発信をする方法はないのか。

町長 稚内市では、FMワッペーを利用して、給水場所や携帯電話の充電、公共施設の情報が発信されたと聞いている。IP告知端末機を作動するには、電源が必要となるため、停電時でも利用できるシステムを考えている。

質問 冬の震災対策はどう考えてるか。

町長 防寒対策と備蓄品の整備が必要だと考えている。

風車について

質問 稚内から中川までの送電線工事が行われているが、豊富町で造られる蓄電



施設は、ブラックアウトに耐えられるのか。

町長 ブラックアウトは、北電の電力供給の大半を担う苫東厚真火力発電所が停止したことにより、電力の需給バランスを保つことができなくなったことよって起こったもので、北電の系統に接続していれば、蓄電設備の有無に関わらず、停止する。

質問 幌延町の風車は、今回のブラックアウトでどうなったのか。

町長 幌延のオトンルイ風車は、停電に伴い稼働を停止した。

質問 今後、オトンルイ風車はどう更新されるのか。

町長 現行の送電容量2万1千kWは変えず、建替えを検討している。平成39年度までに事業を開始する。



斎賀 弘孝

・立命館慶祥高等学校と
の地方創生人材育成制
度の連携協定について

質問 連携協定の情報発信は、教育委員会がホームページ上で行っているのにも関わらず、町長から行政報告されているのは何故か。

総務財政課長 高校と町長との協定のため、町長から行政報告をした。実務的なことは、教育委員会が担当する。

質問 由仁町は、町と由仁町教育委員会と3者協定だが、幌延町はどうなっているのか。

総務財政課長 協定書では、町長と校長の2者の協定である。

質問 地方創生人材育成制度とは、どのような制度か。

教育長 入学してから、その地域で貢献していくような人材を育成していく制度である。

質問 地方創生人材派遣制度も活用されるのか。

教育長 立命館高等学校や立命館大学の教職員、学生、大学院生により、町の地域活性化に関する取り組みの協力についても、期待できると考えている。

町長 まだ、これから先の話であり、この制度で連携を図りながら、今後詰めて行く中で、期待感を持っている。

質問 ホームページでは、「連携協定し、地域活性化に関する取り組み等を活用することができます」と断言しているが、協力を得られることは確定していないのか。

教育長 あくまでも、そういう取組みもあるという説明を受けている。

質問 協定はまだこれから詰めていく段階なのか。

また、希望者がいた場合の選定基準は。

教育長 内容は、平成31年3月以降の幌延町内中学校を卒業見込みの者、学力、人物ともに優れ、幌延町長が推薦する者。内申点がBランク以上で、当学校のみを志望する者。1自治体年間1名としている。

質問 教育委員会と学校の間で、協定に関する会議は行われていないのか。

教育長 校長会の時に触れさせていただき、文書、パンフレット等を配布している。

質問 中学校3年生の子どもに、どのように幌延のためという考えを持ってもらい、推薦入学してもらうか考えはあるのか。

教育長 学校では、保護者会、進路説明会、三者面談で、その学年に応じた説明をしてもらう。校長会でも進め方について、協議して取り組んでいきたい。

